

もっと上手くなりたい

バスケットボールを始めたきっかけは?

姉がバスケットをやっていましたがきっかけで、家族に勧められたのがきっかけです。

とりあえずシュート打ってみないで言つて、打つてみたら入らなかつたのが悔しくて、入るまでやりました。その後ハマって、気づいたらバスケット部に入っていました。

市外の中学校へ進学。思い切った決断だとと思うけど、迷いはなかった?

小学校のミニバスで全国大会に出られなかつたのがとても悔しくて、中学校では必ず全国で戦いたかったんです。

両親からも「どうせやるなら強いところでやってみたら」と後押しがあり、西福岡中学校へ進学しました。

小学校のミニバスで全国大会に出たときは、プレッシャーもあって…それがきっかけで、楽しさよりも「きつい」という感情のほうが勝りました。また、西福岡中学校へ進学しました。

その何年かのうちに唯一全国に行けたと、三年生に混じって試合に出ています。そこで三年生に混じって試合に出たときは、プレッシャーもあって…それがきっかけで、楽しさよりも「きつい」という感情のほうが勝りました。また、西福岡中学校へ進学しました。

ただ「やめる」とは思わず「もっとやつてやろう」と発憤しましたね。

その後大濠高校に進学して、国内・海外の大会でも活躍。そこまでバスケットを続けられる原動力は?

「好き」と「負けず嫌い」だか

世界へ羽ばたく 男子バスケットボール界の ニューヒーロー

燃ゆる原石たち #4

しゅうき
福岡大附属大濠高校3年 中田嵩基

プロフィール

福地小1年からミニバスケットボール（12歳以下の小学生が行うバスケットボール）を始め、3年まで福地クラブ、4~6年まで植木クラブに所属。福岡市早良区の強豪校・西福岡中学校に進み、現在は福岡大附属大濠高校（福岡市中央区）の3年生。身長173センチと小柄な体格ながら、中学生の頃から日本代表選手として海外での試合に出場。

主な世界大会出場歴

- 第4回 FIBA ASIA U16男子バスケットボール選手権大会（当時中学3年生はチーム内最年少）
- 第24回 FIBA ASIA U18男子バスケットボール選手権大会（当時高校1年生はチーム内最年少）
- FIBA U19バスケットボールワールドカップ2017（当時高校2年生。唯一の高校生参加）



らかな。できないことが見つかると、負けず嫌いに火がついて練習してできるようになる。そうしたらまた課題が見つかって、練習して克服して…といふ繰り返しが楽しくて、好きなんです。

試合で楽しいのはどんなとき?

競った場面やミスできないような場面でプレーするのが一番楽しいです。残り何秒かで勝敗が決まるような「何かが起きる」ときが一番注目されるじゃないですか。そういう緊張感の中

でプレーすると、気持ちも上がり、自分のレベルが上がると感じて楽しいです。あとは相手を出し抜いてゴールを決めたとき。相手が「なんで今のが入るの」というような反応をすると気持ちいいですね。

司令塔としての役割

中田さんが務めるポイントガードといふポジションはチームの司令塔。ポイントガードとしての自分の強みは?

他の選手よりも声を出せるところが強みです。負けられないと思うと「ミスしたくない」という気持ちで硬くなってしまうと思つんですね。そういう

うときに白い声を出して、選手とも監督（片峯聰太先生）ともコミュニケーションを取っています。試合になつて急に意思疎通を図るのは難しいので、日頃からよく話しています。タイムアウトの時間も限りがあつて無駄にできないので、少しの時間でも皆を集めて話しています。

日頃コミュニケーションが取れない日本代表チームでは、どう対処しているですか。

最初はコミュニケーションが取りづらくて、合宿で一緒にプレーしていくと、すぐに仲良くなれます。また、代表の選手はプレーのレベルが高いので、コミュニケーションが深まればチーム力もぐんとレベルアップします。そうやってチームが固まっていくのは楽しいです。

さりなる高みへ

今後の課題は?

ゴールにアタックするプレーがまだまだです。海外選手と対戦するところが気になって、ミドルショットやスリーポイントシュートが多くなり、ドリブルからゴール下に切り込んでシューートにつなげる攻撃が少なくなっています。今はとりあえず攻め込んで課題を見つけて、攻撃のバリエーションを増やしたいです。また、身体が硬いとかがにつながる

ため、柔軟性を高めてけがを防ぎたいです。柔軟性が上がると、ディフェンスのときのスライドなど基本動作の質が上がり、プレーの幅も広がります。オンラインの切り替えも課題です。以前は暇さえあれば練習していましたが、今はオフの日を必ずつくって体をケアしています。

ご両親のサポートは大きいのでは?

父と母は自分のコーチ。母からは、自分が今言われたくないことをズバッと言つて、それでも変わらず言い続けます（笑）。それでも変わらず言い続けてくれて、感謝しています。父本人はバスケットボールをやつていたわけじゃないんですけど、バスケに対してすごく研究熱心。その姿勢を見て、自分も研究したり、調べたりするようになりました。今でも困ったときは父の意見を聞いています。ここまでこれたのは両親のおかげですね。

今後の目標を教えてください。

まずはBリーグ（日本のプロバスケットボールリーグ）に入って活躍すること。そして一度はNBA（アメリカのプロバスケットボールリーグ）に挑戦してみたいです。選手としているところまで全力で頑張って、その後は指導者になりたいと思っています。片峯監督のように教員をしながら学校で教えるのか、国際経験を活かして日本ナショナルチームで教えるのか：いろいろ考えていくたいです。

監督に聞きました

片峯聰太監督（写真左）

片峯監督のところでもリーダーシップがあり、頼もしい存在。日本代表でも部活動でも、変わらない態度で黙々と自分の課題に取り組む姿勢が素晴らしい。一手、二手先を読んで試合を組み立てられる能力があり、感じて動けることが強み。

